

上演プログラム(実演部門)

審査日時：3月24日(日) 10:10~12:30

No.	作品名	作者	アピールポイント(応募票内容をそのまま記載)
1	やっぱりかえろう!!	平松 秀夫	こわいたガメに池を追われたゲンゴロウのゲンタは、ゴキブリの仲間に入り、人間の家で生活しはじめます。でも、そこにはタガメよりももっとこわいものが…。ゲンタはやっぱり池に帰りました。「アブラムシの歌」が笑わせます。
2	四万十町の山城めぐり紙芝居 第1話	松井 豊美	2023、12月。四万十町の文化的複合施設建設計画が中止になりました。山・川・海、手つかずの史跡が四万十町には原石であります。後世に伝える誰もがいつでも見ることのできる施設がありません。くやしいです。箱ものはありません。私にできることは紙芝居を作り、語りつぐことと思いき、3年ぶりに参加させて頂きました。よろしくおねがい致します。
3	〇〇のおんがえし PartⅡ	大塚 了	自転車の荷台に紙芝居枠を乗せ、色々なイベントでお洒落な街頭紙芝居を行っています。このコンクールは令和3年度から出品して2年連続で紙の博物館長賞をいただきました。今回は前回の続編ですが、イラストを変え、駄洒落や替え歌で楽しんでいただきます。
4	けしごむがきえた	三本 章代	ナンセンスな紙づくりをしています。原稿を読んだだけでは面白さを伝えるににくいのでぜひ実演を見てください。
5	天狗の木の実	渡辺 久美	やさしい男の子と天狗のお話です。
6	ナンセンスミュージカル紙芝居『デタラメ!たいようのトーチャン』	ゾーイカミシバイスタジオ(脚本:さいとうわに・画:オオシロアサホ・演:ふじいはじめ)	「へっこきよめ」のようなお国言葉を活かした民話紙芝居に強い憧れがあります。しかし、私たちのチームの母語は関西弁。どうしても漫才っぽくなってしまいます。そこで切り替えて、自慢できる関西の題材を詰め込んで、お客さんと一緒に盛り上がる紙芝居を目指しました。出来上がったのは、画と文章だけでは完成しない、お客さんと一緒に盛り上がることで完成する紙芝居になりました。
7	『もみじのきもの』	「るんぷんぷん」(おはなしボランティア)	「善光寺平に伝わる民話」から親孝行な娘、おぬいに里山のきつねから木の葉になど変わる事のない美しいもみじ模様のきものが贈られる。
8	海の水はなぜからい	石丸 雄三	なぜからいか、おたのしみ。土佐の民話です。高知で土佐の民話、紙芝居といえば故市原麟一郎先生(去年亡くなられました)。このコンクールでも大変お世話になり、先生を思い作りました。
9	キリンとうさぎとだれかさん(挑戦に失敗はつきものサ)	くるくる女とそのいちみ(3名)	首を高く伸ばせるキリンと、耳を長く伸ばせるうさぎが出逢います。そしてもうひとりのゲストさんが登場します。それぞれの特技を披露するのですがうまくいくとは限りません……。これは第1話として書きました。次回作ではちがうゲストさんを予定しています。
10	大蛇丸	清水 広美 高橋 知子	新居浜の民話を、子どもたちに知ってもらいたくて作りました。アピールポイントは、クライマックスの大蛇が出る場面を仕掛けにしたところです。
11	スマホのようかいさん	下條 裕史	私は眼科医で斜視の専門医ですが、最近特に若い人にスマホの近距離での長時間視聴が原因とされる斜視の発症が増えています(物が2つに見えたままになります)。皆さん、特に子供たちにもこの作品を通して楽しみつつ近距離長時間の視聴を控えるようにしていただければ幸いです。

No.	作品名	作者	アピールポイント（応募票内容をそのまま記載）
12	あの日から	平松 千瑛	原発事故から半年たった福島牧場の牛たち。置き去りにされた牛たちは必死に生きています。そこへ見知らぬ人間たちがやってきて、仲間の大半を連れ去りました。厳しい冬を耐えた牛たちにやっと春が。それでも、あの日から牛たちには人間が「おそろしいもの」に変わりました。
13	電柱と碍子	松崎 直敏	電柱と碍子の声なき声を聞いてみよう〜♪
14	天の岩戸	四万十高校(5名)	古事記に含まれる神話「天の岩戸」を脚色し、紙芝居にしました。四万十町の文化財「幡多神楽」の魅力を伝えるために、高校生が制作しました。登場人物の描き分けを工夫しながら、親しみやすい絵にしました。
15	奥方に化けた古狐	やすしたぬき	『本朝故事因縁集』巻四 「四国狐不住由来」 四国に狐が住まないのは、伊予の殿様が追い出したから。それからは、四国は狸の天国になったそうです。

※上演順は変更になる場合があります。